

令和6年度 第2回秋田県総合政策審議会 議事録（要旨）

1 日時 令和6年10月7日（月） 13時30分～15時30分

2 場所 県正庁

3 出席者

○ 委員

安 達 隆	社会福祉法人三種町社会福祉協議会事務局長
阿 部 順 一	日本放送協会秋田放送局長
石 井 宏 典	株式会社 141&Co. 代表取締役
石 田 万梨奈	onozucolor 代表
石 田 芳 広	公募委員（一般社団法人白神山地ふじさと観光協会事務局長）
石 場 加奈栄	一般社団法人秋田県薬剤師会副会長
伊 藤 明 子	株式会社ドレッシング・エー代表取締役
梅 津 真 美	全国健康保険協会秋田支部企画総務部保健グループ保健専門職併任グループ長補佐
金 子 晃 輝	一般社団法人ロンド代表理事
黒 川 花 子	株式会社千葉旅館取締役
小 泉 ひろみ	一般社団法人秋田県医師会会長
後 藤 節 子	特定非営利活動法人あきた子どもネット代表理事
齋 藤 多 聞	井川町長
齊 藤 恵 美	黒沢林業株式会社代表取締役
佐々木 一 成	秋田県漁業協同組合象潟地区総代
佐 藤 学	秋田大学大学院教育学研究科教授
高 橋 今日子	東京大学大学院新領域創成科学研究科特別研究員（R P D）
舘 岡 加奈子	北日本コンピューターサービス株式会社システム共創部サービス価値共創課主任
辻 良 之	秋田県商工会議所連合会会長
寺 田 耕 也	株式会社 Local Power 代表取締役
原 田 美菜子	認定特定非営利活動法人環境あきた県民フォーラム副理事長
廣 田 千 明	秋田県立大学システム科学技術学部准教授

古 谷 美 幸	株式会社フルヤモールド代表取締役
守 屋 奈 美	有限会社石孫本店総務企画・海外担当
吉 澤 清 良	立命館アジア太平洋大学サステイナビリティ観光学部教授

□ 県

佐 竹 敬 久	知事
安 田 浩 幸	教育長
山 本 哲 也	警察本部長
丹 治 純 子	理事
谷 剛 史	総務部長
菅 生 淑 子	総務部危機管理監（兼）広報監
久 米 寿	企画振興部長
橋 本 秀 樹	あきた未来創造部長
石 黒 道 人	観光文化スポーツ部長
高 橋 一 也	健康福祉部長
高 橋 佐紀子	生活環境部次長
齋 藤 正 和	農林水産部長
石 川 定 人	産業労働部長
川 辺 透	建設部長
今 川 聡	会計管理者（兼）出納局長
石 井 正 人	企画振興部次長
小 熊 新 也	企画振興部デジタル化統括監（兼）産業労働部次長
清 水 康 成	企画振興部総合政策課長

4 開会

□石井企画振興部次長

ただ今から、令和6年度第2回秋田県総合政策審議会を開会いたします。

はじめに、佐竹知事があいさつを申し上げます。

5 知事あいさつ

□佐竹知事

委員の皆様には、大変お忙しい中参加いただき、ありがとうございます。また、各専門部会においては、半年にわたって熱心に御論議いただき、併せて感謝申し上げます。

はじめに、県内情勢についてお話しします。毎年、観測史上最大の雨量を記録するような気候変動の中で、本県は3年連続で大雨災害による大きな被害を受けております。そのような状況下で、県民の生命・財産を守ることが行政の一番の責任であると考え、減災・防災対策として、現在、抜本的な河川改修を重点的に行っているところです。

また、今年の能登半島地震を踏まえ、同様の地形である男鹿半島や山間地である鹿角地域を対象に、地震が発生した場合の具体的な対策などについても検討する会議を開催しています。今後、それらの成果を横展開することで、災害に強い県づくりを進める必要がありますが、それには多額の費用がかかり、県財政や国の制度にも限界があることから、ハード・ソフトの両面において効率良く推進できるよう、優先順位をつけて対応することが重要と考えています。

併せて、最近、全国的に道路や橋梁の老朽化が課題となっております。特に、本県は広い県土に集落が散在していることから、道路密度は全国でも高い状況となっておりますが、全ての施設を完全にメンテナンスしていくことは、財政的・物理的にも不可能であるため、こちらも優先順位を付けながら一部廃止などを含めた対応を検討していく必要があります。

次に、県内の経済情勢についてです。現在、インバウンドの増加や洋上風力発電の導入によって本県を訪れる人が増えていることから、県内各地でホテルの新增設が始まっています。今後、各地の洋上風力発電が稼働することで、メンテナンスなどの目的で海外からの技術者が相当程度本県を訪れることが見込まれます。

また、企業誘致については、給与の高い企業が本県に進出するなど、順調に進んでいます。これらの企業には、地元の新卒者やAターン・Uターンの方の応募も多く、この人材不足の中でも採用に不自由していないことから、これからは給与が一定程度高くなければ人材が確保できない状況となっていきます。中小企業においても、時代の変化や技術革新などをしっかりと見据えながら、構造転換やM&Aなどによる経営効率の改善に取り組む必要があり、県としてもそのような取組を行うと

ころにはしっかり支援をしていくこととしております。

そのほか、高校生の地元就職については、順調に進んでいる状況です。しかし、高校生の地元就職は全体の3割であり、残りの7割は進学することから、県外・県内の大学を卒業した県内出身者に、いかに県内に就職してもらうかが重要となります。そのため、大学生が勤務したいと思う職場を増やし、若い世代の県外流出に歯止めをかけることを目的に、来年度から大幅に拡充した奨学金返還助成制度を開始することにしており、現在、企業からの引き合いが想定以上にある状況です。

本県は人口減少などの課題はあるものの、変革する社会情勢の中で重要となってくる食料やエネルギー、水、山林などが豊富にあり、将来において希望を持つことができる要素が多い県であり、それを発信していくことが重要と考えております。

本日の会議では、来年度に向けた県への提言書について意見交換をしていただくことにしており、御意見を聞き、私共もしっかりと対応していきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

6 会長あいさつ

□石井企画振興部次長

続きまして、辻会長からごあいさつをお願いいたします。

●辻会長

皆様には、5月から審議会や各専門部会で活発な御議論をいただき、誠にありがとうございます。

知事のごあいさつにもありましたとおり、本県には頻発化・激甚化する自然災害への対応のほかに、人口減少などの課題が山積しております。そうした課題を一つずつ解決し、より良い秋田を次世代のために作っていくためには、官民が連携し総力を挙げて対応していかななくてはならないと考えております。

本日は、各部会で取りまとめた提言について御説明いただいた後、皆様から御意見をいただき、最終的には取りまとめて知事へ提言書としてお渡ししたいと考えております。

限られた時間でございますが、活発な意見交換ができますようお願いを申し上げます、あいさつとさせていただきます。

7 委員の変更について

□石井企画振興部次長

続きまして、次第4の「委員の変更について」でございます。本審議会の委員に御就任いただいております日本放送協会秋田放送局長の石井令人様が、人事異動に伴い、6月30日付けで委員を辞任されたことから、新たに秋田放送局長に御就任された阿部順一様に、後任として本審議会の委員に御就任いただいております。

7月25日付けで御就任いただきました、日本放送協会秋田放送局長の阿部順一様です。

8 議事

□石井企画振興部次長

続きまして、次第5の「議事」に移りますが、ここからの進行は社会長にお願いいたします。

●社会長

次第に沿って進める前に、一言申し添えます。審議内容は、議事録として県のウェブサイトに掲載されます。その際に、委員名は特に秘匿する必要はないと思いますので、公開で行いたいと考えておりますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

御異議ないようですので、公開を進めてまいります。

また、限られた時間の中で、できるだけ多くの委員の皆様の御意見を伺いたいと考えておりますので、御協力の程、よろしくお願いします。

本日の議事は、「各専門部会からの提言について」ですが、各部会の委員の皆様には、5月以降、新プランの推進のため、重点戦略毎に県への提言の取りまとめに向けて御議論いただいていたところですので。

本日は、各部会から、提言の内容について御報告いただき、委員の皆様と意見交換を行った上で、審議会としての提言を取りまとめていきたいと思っております。

進め方については、六つの部会がありますので、はじめに、前半として、新プランの戦略順に産業・雇用部会、農林水産部会、観光・交流部会の三つの部会からの御報告と意見交換を行い、引き続き、後半として、残り三つの部会について、同様に進めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

それでは、前半の三つの部会について進めてまいります。はじめに、産業・雇用部会の提言について、伊藤部会長から御報告をお願いします。

○伊藤委員

（資料 1 ～12 ページに基づき説明）

●辻会長

次に、農林水産部会の提言について、齊藤委員から御報告をお願いします。

○齊藤委員

（資料 13～17 ページに基づき説明）

●辻会長

次に、観光・交流部会の提言について、吉澤部会長から御報告をお願いします。

○吉澤委員

（資料 18～31 ページに基づき説明）

●辻会長

ただ今御報告のありました三つの部会の提言について、御意見、御質問はございますか。

○寺田委員

観光・交流部会の提言書 25 ページ（４）「秋田の「食」の魅力の発信と誘客への活用について」です。記載のある発酵文化も秋田ならではの素晴らしい文化だと思います。加えて、本県は東北各県と比べてグルメサイトで高評価の飲食店が非常に多く、グルメ目的で来県する方々もいることから、是非そういった視点も提言に取り入れてみてはいかがでしょうか。

○吉澤委員

一般的に「食」の魅力というのは、お客様を誘引する大きな要素となります。私も、秋田には魅力的な素材が多いと考えていることから、御指摘の点については分かりやすくなるよう調整できないかを検討したいと思います。

○石田（芳）委員

観光・交流部会の提言書 22 ページ（５）⑤「クルーズ船の誘致」については、全くそのとおりであり、県でイニシアチブをとりながら推進していくことが重要と考えています。仕事柄、クルーズ船の公式ランドオペレーターとお話しする中で、西日本に比べ、東北地方への誘致は積極的に行われていないことや、フランスのクルーズ船において、東日本の寄港地を探す動きが活発化しているなどの話があったことから、具体的な取組の一つとして、西日本を中心に寄港実績があるフランスの小型クルーズ船の能代港への誘致についても、前向きに検討いただければと考えております。能代港への寄港実現に向けては、受け入れ側の自治体や観光協会などの準備は必要となりますが、実際に西日本で行われているオーバーナイトステイといった手法を採ることで乗船客が鹿角市や小坂町まで足を延ばすことができ、県北地区の観光振興の一助にもなる可能性も秘めていることから、実現に向けて検討いただければと思います。

○吉澤委員

石田委員の御意見につきましては、第３回目の部会の際に委員や事務局で共有し、その場でも議論をしております。今回は、秋田港や船川港のクルーズの寄港状況も鑑みつつ、それぞれの港に限らない県全体としてのセールスという視点での記載にしているところですが、能代港への寄港の可能性については、それぞれで共有

しているところです。

□石黒観光文化スポーツ部長

秋田の「食」の魅力については、県内にそういった素晴らしい飲食店があることは存じ上げております。それらのお店の中には、一見さんお断りや予約が取りづらくなることから積極的なPRを好まないというところもあり、これまで有効に活用できていない状況です。しかし、潜在的な需要はあると考えられることから、飲食店と相談しながらPRすることで、より多くの方に本県に来ていただけるよう努力してまいります。

□川辺建設部長

クルーズ船の誘致については、吉澤委員がお話ししたとおり、能代港に限らず、秋田港や船川港を合わせた県の魅力をPRしているところであり、コロナ禍によって一時期減った寄港回数は、今年は内航を合わせて27回と回復しています。

引き続き、トップセールスなども行いながら秋田の魅力を発信し、クルーズ船が県内に寄港できるよう環境整備に努めてまいります。

●辻会長

続きまして、後半の三つの部会について進めてまいります。

はじめに、未来創造・地域社会部会の提言について、石田部会長から御報告をお願いします。

○石田（万）委員

（資料32～41ページに基づき説明）

●辻会長

次に、健康・医療・福祉部会の提言について、小泉部会長から御報告をお願いします。

○小泉委員

(資料 42～54 ページに基づき説明)

●辻会長

最後に、教育・人づくり部会の提言について、佐藤部会長から御報告をお願いします。

○佐藤（学）委員

(資料 55～62 ページに基づき説明)

●辻会長

ただ今、御報告いただきました三つの部会の提言について、御意見、御質問がありましたら、よろしくお願いします。

○齋藤（多）委員

未来創造・地域社会部会の提言書の 36 ページ（3）「安心して子育てできる体制の充実について」、私自身も子育てをしている中で、男性の子育てへの参画については世代間のギャップがあり、企業や社会における風土の醸成ができていないと感じています。男性の子育てへの参画に係る風土を醸成していくためには、県が主体となって一生懸命取り組むというよりは、企業等に働きかけ、男性が子育てに進んで参画するような方策を考え、実行していく必要があると思います。

次に、41 ページの（1）②「行政情報のオープンデータ化の推進」については、記載のとおり、オープンデータ化が進んでいない町村に対する支援をお願いしたいと思います。それに伴い、どういったデータをオープンデータ化すべきかといった視点などについても、県で示唆いただきながら、誘導していただければと思います。

○丹治理事

男性の育児参画については、我々も同じ問題意識を持っており、地域住民の世代間における価値観のギャップを埋めることを目的に、県内 3 か所で小学生から祖父母世代までの方々を対象にしたワークショップの開催をスタートしたところです。

また、男性の積極的な家事・育児への参画には、地域の企業経営者の皆様からの

御理解も必要となることから、今年 7 月に「あきた女性の活躍推進会議」において、男性の家事・育児への参画についての K P I を設定しております。

現在、県では、それを推進するためにどのような働きかけをしていくべきか検討しているところであり、いただいた御意見も参考にしながら、県民や企業経営者の皆様から御理解をいただけるよう、推進していきたいと考えております。

□久米企画振興部長

オープンデータ化については、企画振興部の調査統計部門が取り扱っており、現在 200 項目程度の調査のデータを公表しております。市町村でオープンデータ化を推進するに当たっては、委員がおっしゃいましたように、どのようなデータがオープンデータ化に適しているのかも含めて例示するなど、県として誘導できるよう検討を進めてまいりたいと思います。

○金子委員

教育・人づくり部会の提言書の 57 ページ④「家庭の事情などにより大学等への進学を断念せざるを得ない生徒に対する支援を行うこと」については、全くそのとおりだと思います。我々の団体でも、総合的な探究の時間などで県立高校の生徒と関わる機会がある中で、進学率が低い高校でも進学をしたいという意思を持つ生徒は一定程度おりますが、経済的な理由などから保護者が地元企業への就職を決めてしまうケースも見られます。このことは、生徒の可能性をそこで閉じてしまうおそれもあることから、生徒の進路に対する意向を後押しできるような仕組み等ができればよいと思っております。

□安田教育長

高校生が進路を考える際に、保護者の意見は大きな影響力があると思います。そのため、進路相談の際には、生徒だけではなく保護者にも奨学金制度などの情報を提供するなど、適切な指導ができるよう進めてまいりたいと思います。

○高橋委員

各部会からの報告や参考資料「新秋田元気創造プラン中間総括」の中で、ほとん

ど全ての議論の出発点が少子高齢化・人口減少であることに疑問をもちました。確かに、秋田は人口減少が日本において最も進んでいる地域ですが、いつもそこから議論をスタートしてしまうと、議論の内容と戦略が「少子高齢化」や「人口減少」を踏まえたものばかりになってしまいます。単に、出生率の向上や人口減少の改善が、秋田の元気の創造につながるかと言えばそうではなく、その政策の主眼は、今いる秋田の人たちの特性や課題を踏まえ、「どのような施策を実施したら元気を創造できる事業や暮らしができるか」ということです。

そのため、少子高齢化・人口減少の観点から少し離れて考えてみる思考も入れながら、「秋田を元気にしていくためにはどのようなことが必要か」を考えるメッセージがより鮮明になる提言書になるよう望みます。

○石田（芳）委員

未来創造・地域社会部会の提言書の 37 ページ（1）①「アンコンシャス・バイアス等の解消」についてです。このことは精神的な内容であることから、具体的な方策にも記載のあるように、地道に取り組んでいくことが大切と考えており、県が主体的に推進し、現状に風穴を開けてほしいと思います。

次に、二地域居住の支援については、各部会の提言書でも交流人口や関係人口の拡大という観点で記載されており、共感しているところです。また、11 月からは二地域居住を促進する制度の創設を盛り込んだ改正広域的地域活性化基盤整備法が施行されることに伴い、国土交通省の来年度の概算要求に、都市と地方に生活拠点を持つ二地域居住の普及に向けて活動する企業やNPO法人への財政的支援に係る経費が計上されたとの報道があり、歓迎しているところです。

私も単身で秋田に移住し、家族が東京にいるという二地域で生活している経験を踏まえ、地方と都市と二地域居住であれば、通常の移住と比べ、比較的ハードルが低く、前向きに捉える方も一定数いるのではないかと感じています。そのため、今回の国の制度を利用し、本県において、二地域居住の全国的なモデルとなる取組を講じていただくことで、ウェルビーイングな社会の実現にもつながると思いますので、前向きに考えていただければと思います。

□橋本あきた未来創造部長

最近では、二地域に留まらず、多地域を行き来しながら仕事する若者が増えるなど、若い世代を中心に仕事の仕方が変わってきていると感じています。その中で、国土交通省の制度は、関係人口という観点からも特徴的なものであり、全国の自治体で作る協議会などに加入しながら情報収集をしているところです。

今後、国の動きが本格化していく中で、県としてどのような取組ができるかについて、引き続き研究していきたいと考えております。

○石田（万）委員

未来創造・地域社会部会や産業・雇用部会の提言書にあるとおり、人口減少が進む中で、自らの地域で調達できない人・モノ・お金などの資源を外部から支援していただくという外部人材の活用は重要な視点だと思います。

加えて、この外部人材の活用と共に、本県の若者を始めとした働く方々が、副業・兼業などの働き方を活用しながら、自分の能力を最大限に活用し、自己実現できる県にしていくことも重要な視点であることから、その部分についても留意いただき、施策を推進していただきたいと思います。

○金子委員

未来創造・地域社会部会の中でも、副業・兼業を促進していくに当たり、企業としては「仕事をしなくなるのではないか」「辞めてしまうのではないか」という懸念についての議論がありました。その中で、首都圏では副業・兼業を認めている企業が多くあることから、それらの企業のガイドライン等を共有していくことにより、県内における副業・兼業も広がっていくのではないかと意見が出ていましたので、共有させていただきます。

○寺田委員

先ほどの高橋委員の御意見に関連し、議論の原点を「秋田をどうやって元気にしていくか」に置くというのは賛成です。

併せて、事業を打ち出すプレスリリースなどの際に、行政では公平性や正確性などの観点が重要視され、面白みに欠ける内容となってしまうことが多いと感じています。そのため、民間企業などからもアイデアを募りながら、県内外を含め、多

くの方々に秋田の良さや盛り上がりを伝えられるよう、メディア受けがよいキャッチーな打ち出し方を研究していくことも必要だと考えています。

○阿部委員

提言書に書かれている内容は、県や委員の皆様も既に取り組んでいることの一端であるような気がしており、ここにブレイクスルーを求めていくのであれば、違う観点も必要となるのではないかと思います。また、寺田委員がおっしゃったようなキャッチーな言葉というの、このような点を指しておっしゃられていると思います。本日、初めて参加させていただき、この審議会の意義をどう考えるのかというのを、もう少し明確にしてもいいのかなという印象を受けました。

●辻会長

ここで皆様にお諮りします。

各部会からの提言に、本日の委員の皆様の御意見を反映させたものを審議会としての提言とすることとし、提言書の作成につきまして、会長である私に御一任いただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

県当局におかれましては、審議会の提言や本日の委員の皆様の御意見などを踏まえて、今後の予算編成や新プランに基づく施策の展開を進めていただきたいと思います。

9 その他

●辻会長

次第6の「その他」ですが、この機会に確認しておきたいことなどがあれば伺います。何かございますか。

（意見なし）

10 閉会

●社会長

以上をもちまして、議事は全て終了しましたが、最後に知事からお願いします。

□佐竹知事

いろいろな面からの御提言、御意見をいただき、ありがとうございました。

本日いただいた御意見について、私の考えを少し申し上げたいと思います。秋田のグルメにおいては、県内で評価の高いのは伝統的な郷土料理のお店ではなく、県内で採れた素材を使ったフレンチや寿司などのお店であり、シチュエーションや料理の出し方などにこだわっているところが多いと感じています。

また、人口減少については全国的に進んでいます。その中で、社会における年齢や地域的なバランスなども注視しながら、健全な形を維持していくことが重要であり、それをフォローしていくことが「人口減少問題の克服」であると考えております。今後、国際情勢が大きく変化していく中で、本県は食料やエネルギー、水などが揃っており、地域として維持できることが強みであると考えており、県民にもこの点を理解していただくことが、次の総合計画の重要な要素になるのではないのでしょうか。

本日、いただいた御意見を加味しながら、今後の施策を推進していきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いします。

□石井企画振興部次長

以上をもちまして、令和6年度第2回秋田県総合政策審議会を閉会いたします。